

大学図書館におけるソーシャルメディアの利用に関する実態調査

Survey of Social Media Use in Academic Libraries

学籍番号：201221578

氏名：石過桃子

Momoko ISHIKKA

近年、インターネット上の情報発信手段として、SNS やブログ、マイクロブログなどのソーシャルメディアが注目されている。公共機関においても、報道機関や政府機関はニュース速報や広報のために利用しており、さらに、東日本大震災をきっかけに国や地方自治体での利用も広がった。公共機関のソーシャルメディアの利用に関しては、2011 年に経済産業省が「国、地方公共団体等公共機関における民間ソーシャルメディアを活用した情報発信についての指針」を発表し、ソーシャルメディアを利用する際の留意点について注意を促すとともにソーシャルメディアの活用を推進している。

大学図書館においても同様に、ソーシャルメディアによる情報発信の例が確認されている。しかし、図書館におけるソーシャルメディアの様々な利用実態については、米国を中心に既往調査が存在するものの、日本での調査は進んでいない。そこで、本研究では、日本の大学図書館におけるソーシャルメディアの網羅的な利用実態調査を行い、どれだけの大学図書館がソーシャルメディアをどのように利用しているのか、新たなメディアがどのように大学図書館において受容されようとしているのかを明らかにすることを目的とする。

調査の結果、ソーシャルメディアを利用していた大学図書館は全体のわずか 6.3%と少なかった。また、大学図書館において、ソーシャルメディアの利用への関心は高いが、それは情報発信ツールとしての意味合いがほとんどで、コミュニケーションツールとしての関心は低い。さらに、情報発信ツール、コミュニケーションツールどちらの目的で利用するとしても、その対象であるフォロワーをどう増やすか、その工夫の成果をどう現実に反映させるかが大きな課題であることが分かった。

研究指導教員：池内淳

副研究指導教員：逸村裕